

### Ⅲ 労働衛生（騒音） 編

#### 1 リスクの見積り手法

①有害性のレベル、②ばく露時間の2つの要素による『マトリクス方式』でリスクを見積ります。

#### 2 評価基準

- ① 有害性レベルの評価基準
- ② ばく露時間の評価基準

リスクの見積り基準には、以下の文献を参考に作成しました。

1. 日本産業衛生学会「許容濃度の勧告（2007年度）」
2. 「騒音障害防止のためのガイドライン」  
(平成4年10月1日付け基発第546号)

表3-14 リスクの見積り

| ばく露時間<br>有害性の<br>レベル   | 8時間<br>以上 | 8時間未満<br>4時間以上 | 4時間未満<br>2時間半以上 | 2時間半未満<br>1時間以上 | 1時間<br>未満 |
|------------------------|-----------|----------------|-----------------|-----------------|-----------|
| 90dB(A)以上              | 高         |                |                 |                 |           |
| 90dB(A)未満<br>85dB(A)以上 | 高         |                |                 | 中               | 低         |
| 85dB(A)未満<br>80dB(A)以上 | 高         | 中              | 低               |                 |           |
| 80dB(A)未満              | 低         |                |                 |                 |           |

#### 3 リスクの優先度の設定

表3-15 リスクの優先度

| リスク | 優先度                       |
|-----|---------------------------|
| 高   | 直ちに対応すべきリスクがある            |
| 中   | 速やかに対応すべきリスクがある           |
| 低   | 必要に応じてリスク低減措置を実施すべきリスクがある |